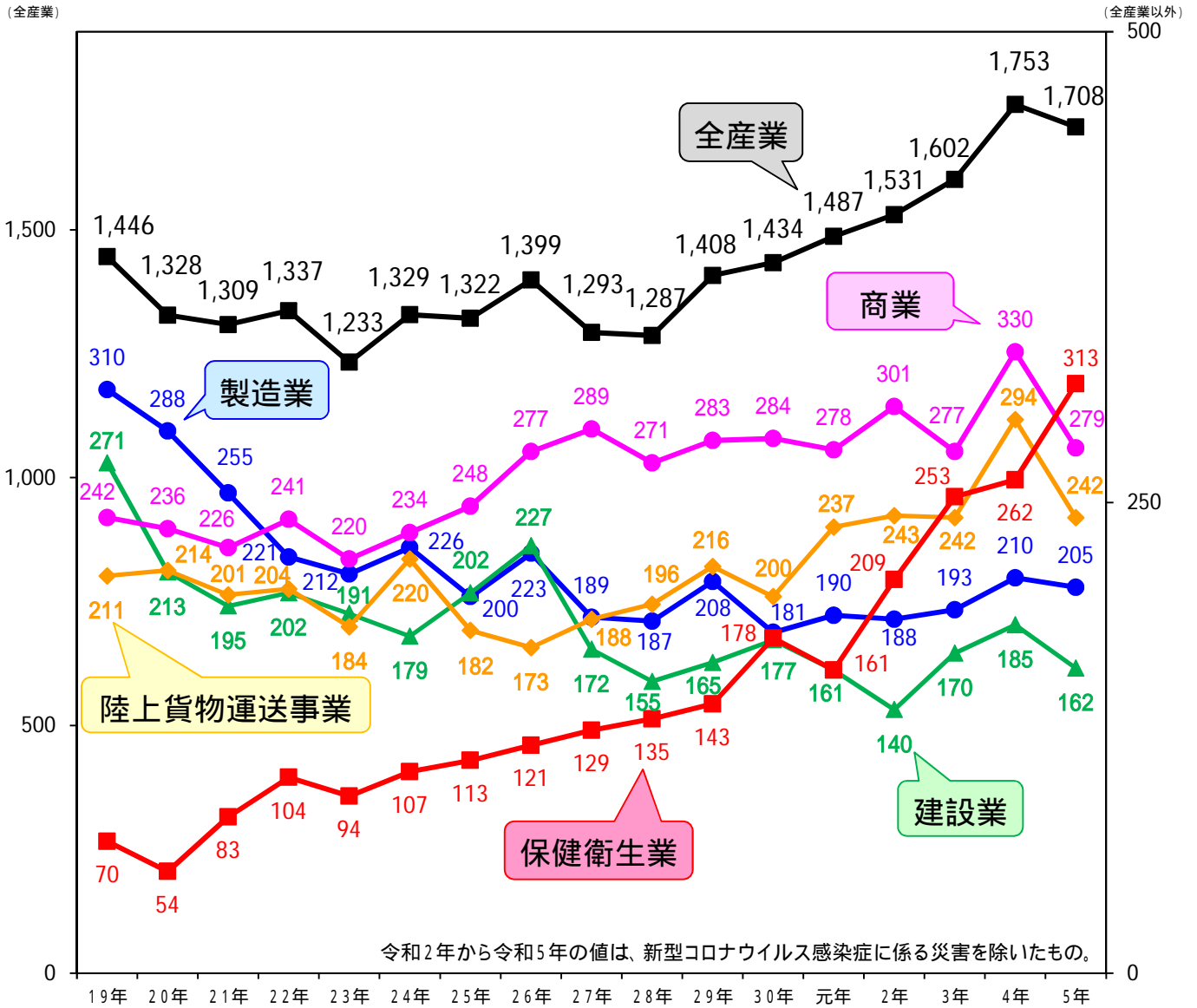


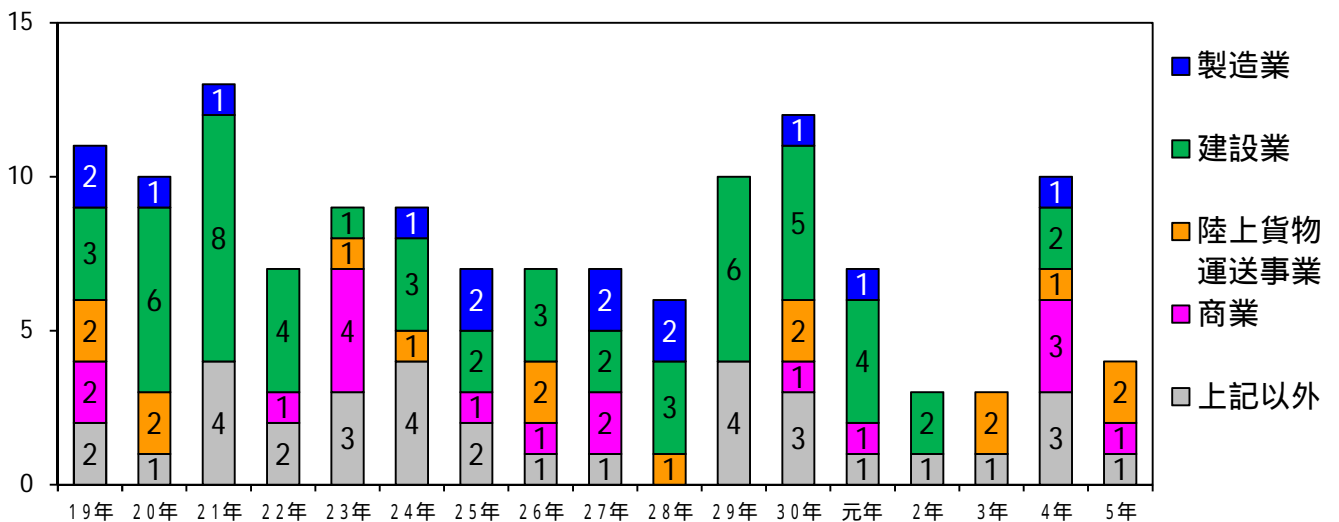
労働災害の現状

さいたま労働基準監督署

業種別の死傷者数の推移

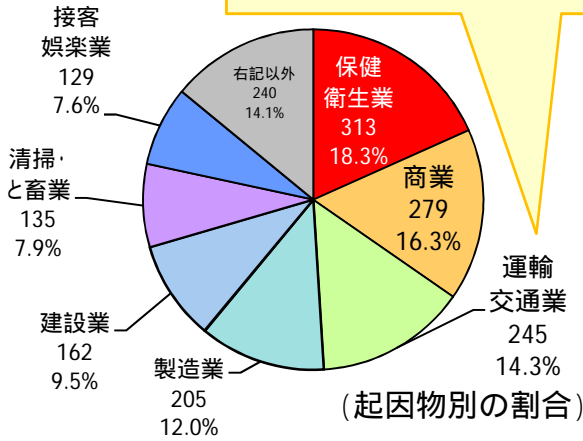


業種別の死亡者数の推移

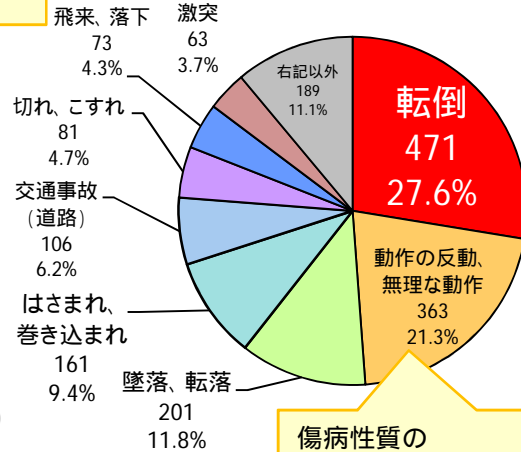


令和5年 死傷災害発生状況 (新型コロナウイルス感染症に係るものを除いた1,708件を集計)

(業種別の割合)

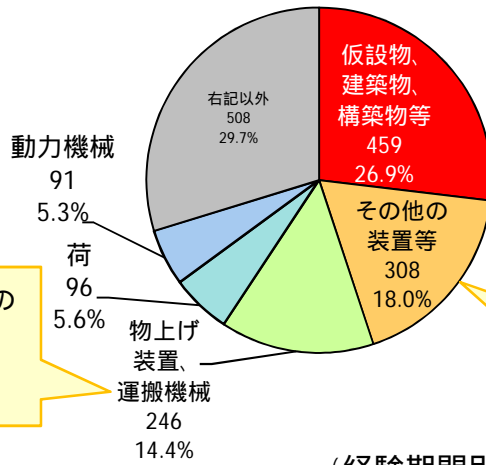


(事故の型別の割合)



「道路貨物運送業」と「陸上貨物取扱業」を合計した陸上貨物運送事業は242件、その割合は14.2%

(起因物別の割合)

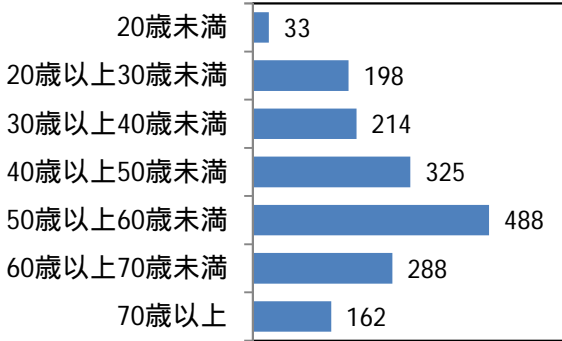


傷病性質の
33.1%が「負傷による腰痛」、
27.0%が捻挫等を含む「関節の障害」

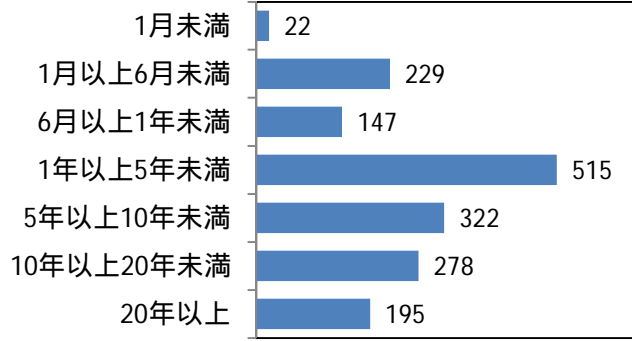
「物上げ装置、運搬機械」の
43.9%が
「乗用車、バス、バイク」、
37.0%が「トラック」

「その他の装置等」の30.8%が
台車、ロールボックスパレット、
自転車等の「人力運搬機」

(年齢別の状況)



(経験期間別の状況)



主要な事故の型別の死傷者数の推移

